

日本発ドイツ便り：ドイツで洗濯

もう随分前の話になってしまいますが、ドイツでの生活を始めるにあたり、一番慣れるのが難しかったのは、言葉でも食生活でもなく、実は「洗濯」でした。☺

洗濯機がドラム式。くらいまでは知っていたのですが…違っていたのは洗濯機だけではなくて、洗濯文化でした。違いをざっと挙げると…

● 洗濯の頻度

日本では、毎日とか2日に1回というのがおそらく一般的と思われるのですが、水道・電気代が高く、一回の洗濯に時間がかかるドイツでは、週1回が平均的と思われます。ただ、日曜日は「休息日」で、掃除洗濯しちゃダメな日なので、それ以外の毎週日曜日をWaschtag（ヴァッシュターク：洗濯の日）と決めている家庭が多いです。

一軒家なら、伝統的に洗濯室は地下にあります。集合住宅（ドイツ語ではApartmentとかWohnungとかMehrfamilienhausと言います。日本で使われる「マンション」という言葉は少なくとも1フロア全部、くらいの豪華さのものにしか使いませんのでご注意！）には各家に洗濯機は置かず、もしくは置けず、1フロアに1台とか、地下に洗濯ルームがあったりと、コインランドリー式になっているところも多いです。（私の住んでいたWohnungにも地下に洗濯ルームがありました。）

あと、ドイツの大きな街に行くと、いろんなところにWaschsalon（ヴァッシュサロン）というものがあります。要はコインランドリーのことなのですが、最近はカフェを併設しているところもあって、お茶したり、読書しながら洗濯の完成を待つこともできるようになっている所もあります。

● 水の温度

なんと、素材によって、洗う水の温度が異なります。赤ちゃんの衣類とかテーブルクロスとか、消毒したい、シミ抜きしたい場合に使われるKochwasch（コッホヴァッシュ：煮洗い。95°Cのお湯で洗います）とか、白ものは60°C、色もの、化繊、お洒落着は40°C、ウールは30°Cとそれぞれ洗う温度が違って、それぞれ洗濯には加熱した水を使います。ただ注意事項として、Made in Japanのウールは、多分ウール洗いの温度で洗うと、縮みます。（一度しか実験したことはないですが、私のセーターが小型犬のお洋服みたいになってしまって、とても悲しい思いをしました）反対に、日本で暮らすドイツ人の知り合いからは、「水道水で洗う洗濯はどうも汚れが落ちないような気がして、気持ち悪いので、いつもお風呂の残り湯がまだ熱いうちに洗濯する。」と聞いたことがあります。

● 色ものと白もの

上記の水の温度の問題があるからなのか？洗剤も「色もの」用と「白もの」用があります。もちろん、「お洒落着用」「ウール用」「柔軟剤」などなど。さらにややこしいことに、ドイツの水道水は硬水で、カルキ（石灰）を多く含むので、そのまま洗濯に使うと、洗濯機の配管に石灰が付着して、洗濯機の寿命を縮めてしまうので、Calgon（カルゴン）という石灰質を分解する錠剤も洗濯の度に必要なのです。そんなこんなで、洗剤もありとあらゆる種類があって（日本よりはるかに多いです）どれを選べばよいのかさっぱりわかりません。

ただ、これで、まったく別の謎が解けました。スーパーなどの下着売り場の「3枚いくら」で売られているようなワゴンを思い浮かべてください。日本だったら、まあ色とりどりだと思います。それがドイツでは…。そうです。多少のデザインの違いはあれ、白一色なんです。あとは、見たことないような大きなサイズのものがあります。☺



ドイツのドラッグストアの洗剤売り場。なんせ効能が細分化されていて、ホントにすごい数です。こんな写真まで撮っている私って…。ずっと前から洗濯のことは何時か書いてやろうと思っていたのです。☺



- **アイロンは必需品**

以前にどこかで書いたような気がしますが、ドイツの都会部では、外から見える場所に洗濯物を干すのは禁止なので、基本的に洗濯は乾燥器で乾燥させます。なので、きれいに乾きますが、もちろん、漏れなくしわしわの状態です。そこで登場するのが Bügeleisen (ビューゲルアイゼン：アイロン)。ドイツでは必需品です。下着からシャツ、セーターにシーツまで全部アイロンをかけます。洗濯～乾燥で最低2時間＋アイロンがけ。なので、わざわざ「洗濯の日」と決めるほど結構時間も労力も必要なのです。もちろん、「アイロン専門店」もありますよ。

こんなに違う、ドイツで洗濯事情。でした。